

## 2020年東京オリンピック・パラリンピックを実現しよう

—スポーツによって得られる「三つの宝」とは—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 明けましておめでとうございます。開倫塾塾長の林明夫です。今年も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今年1年どうかよろしく申し上げます。今年はいろいろなことがたくさんある年です。今日は年度の初めですので、今年行われる様々なことについてお話をさせていただきます。
2. 私は、今年は大変素晴らしい1年になるのではないかと思います。安倍内閣も発足してメンバーが一新し、20年以上にわたって毎年この番組にも御出演いただいている衆議院議員の茂木敏充先生は経済産業大臣になりました。茂木大臣におかれましては、ぜひ、日本と世界の発展のために御活躍していただければ有難いと思います。
3. また、2020年のオリンピック候補地が出揃っていますので、今年の9月にはその中から1つの都市が選ばれます。候補地は、スペインのマドリードとトルコのイスタンブール、そして東京です。この3つの都市の中から1つが選ばれることになっています。スペインは今経済が大変な状況ですが、このように大変な状況だからこそオリンピックを招致したいという思いがスペインの国民の皆さんにあると思います。スペインの経済は非常に厳しい状況ですので少し難しいかなと私は予想しています。それから、トルコのイスタンブールは中東の真ん中に位置し、多くの紛争地を周辺諸国に抱えていますので、安全性という面からあまり有力な候補地ではないと思われれます。このようなことから、私は東京が選ばれる可能性が非常に高いと考えています。ただ、東京のデメリットが1つだけあります。それは、スペインやトルコは国民が盛り上がっていて、オリンピック招致に賛成の方が国民の8割以上を占めていますが、東京の場合は盛り上がりが少なく、日本国民の支持がまだ4割ぐらいしかないことです。オリンピック招致委員会はこれから様々な調査をしますので、もし日本国民の盛り上がりが少ないということが判明すると、他の都市、つまりスペインやトルコで2020年のオリンピック開催される可能性が出てきてしまいます。そこで、私はこの番組でもオリンピックに関して時々お話させていただきたいと思います。せっかくのチャンスですので、2020年に東京でオリンピックを開催していただければ有難いと思います。
4. オリンピックを開催すると設備投資等でお金がかかって大変だという財政的な負担面もありますが、それにも増して、国民が一つになって東日本大震災や福島原発問題を乗り越えるよい契機・きっかけの1つになるのではないかと思います。去年、なでしこジャパンは非常に活躍されて有難かったと思います。あのような形で、いろいろなチームが国のために・国民のために・自分たちのチームのために・最終的には自分のために頑張るということを見せていただき、それを皆さんが応援して国としての一体感を醸し出すには、オリンピックは素晴らしいと思います。また、現在の小学生や中学生が今から7年後のオリンピックに出たいということを希望の星として、今やっ

るスポーツに励むことも素晴らしいことだと思います。さらに、オリンピックと一緒にパラリンピックも開催されますので、パラリンピックに出場して大活躍をしたいという方が増えれば増えるほど、自分の人生や国の希望にもなると思います。ぜひ、オリンピック・パラリンピックを2020年に東京で開催していただければと思います。

5. ところで、スポーツは自分の人生にどのようなよい影響を与えるかというお話を少しさせていただきます。私は、中学校時代の部活動で柔道をやっていました。当時は、足利市立山辺中学校に椎名弘先生がいらっしゃいました。椎名先生は、宇都宮大学時代に柔道部の部長だった方で、その当時5段という段位をお持ちでした。そのような方から私達は指導を受けましたので、非常に厳しい練習で、「練習で泣いて試合で笑え」ということも教えていただきました。その厳しい練習のお陰で、私達の山辺中学校のチームは新人戦で優勝、中学3年生の県大会で優勝、個人でも準優勝をさせていただいたという思い出があります。また、柔道の「柔よく剛を制す」や嘉納治五郎先生の「自他共栄」、自分も他人も共に栄えようという教えも学ぶことができましたし、友達もたくさんできました。栃木県内の他の地域や群馬県などあちこちへ遠征に行ってみ聞を広めることもできました。また、中学3年生の夏休みには栃木県の強化選手に選ばれ、宇都宮市の県の武道館で何日か合宿し、中学生でありながら栃木県警察本部の機動隊員と練習をさせていただき、あまりの強さに驚いたこともあります。

6. スポーツによってどのようなことが得られるのか、また、人格によい影響を与えるのかについては、慶應義塾大学塾長であられた小泉信三先生が、スポーツによって得られる「3つの宝」を教えてくださいました。

(1) 1つは、「フェアプレイの精神」です。すべてのスポーツにはルールがあるので、ルールをよく学び、ルールの中でプレイをすること。間違っても卑しいことはしてはいけない、勝つために何をしてもよいというのではなく、卑しいことはしないでルールをよく守り、正々堂々と戦って正々堂々と勝って正々堂々と負ける、それがスポーツとしての素晴らしいところだという「フェアプレイの精神」が1つ目です。

(2) 2つ目は、「よき友」です。先ほどお話したように「練習で泣いて試合で笑え」というくらい厳しい練習をします。練習は本当に辛く厳しいのですが、一緒に汗を流すよい友達ができます。スポーツで「よき友」を得ることができます。素晴らしい恩師に出会うことができるのもスポーツの素晴らしさです。

(3) 3つ目は、「練習は不可能を可能にする」の精神です。私は小学校時代に柔道は全くできませんでしたが、最終的には県大会で優勝するチームに入れるくらい中学校3年間でいろいろなことを教えていただきました。何もできなかった人が練習することによって本当に素晴らしいプレイをするまでになる。最終的にはオリンピックに出る人までいるのです。そこまで上達するわけですので、不可能を可能にするのが練習です。

以上のように、小泉信三先生は、「フェアプレイの精神」、「よき友」、「練習は不可能を可能にする」というこの3つを得られるのがスポーツだと教えてくださいました。

7. 2020年に東京でオリンピックを開催できるように招致していただき、皆さんでスポーツをしたり、オリンピックに参加したりできればと思います。今年の9月には開催地が決定しますので、それまでオリンピックについてもぜひ皆さんと考えたいと思います。

—追記・訂正 2013年6月12日 林明夫—